

のなか たかひろ
野中 孝泰

●電機連合・書記長

I o T時代の心の備え

はじめに

新年明けましておめでとうございます。今年が皆様にとりまして実り多い年となりますよう心よりご祈念申し上げます。

さて、新年に思うことを何でも良いから述べよ、というご依頼を受けたので、その動向を学ばないといけないと思っていることについて述べさせて顶きたい。

第1～第3の産業革命に続く第4の産業革命として、「インダストリー4.0」という言葉を耳にする機会が多くなった。ものづくり産業の労働組合として関心は高いが、今一中身がよくわからない。また、「人工知能」や「I o T」など、私達の生活や仕事にどのように関わってくるのか、しっかりと勉強しておかないと世の中の変化に取り残されてしまいそうな危機感に似た感情さえ持ってしまう。

多くの関連書籍が出版されているが、東洋経済新報社出版の『インダストリー4.0』（尾木蔵人著）にわかりやすく記載されていたので、先ずはその内容について紹介させて頂く。

その後、間違いなく起こりつつある大きな変化に、どのように備えるのか？思いの一端を述べさせて頂きたい。

「インダストリー4.0」とは？

著者によると、「ネットワークで情報をつなげ、コンピュータ、人工知能を活用して、生産や流通などの自動化を最適なレベルまで引き上げようとする試みである」。また、「インターネットを活用してネットワーク化を進める動きが今、欧米で大きな潮流となり始め

ている。ドイツは、2013年より政府主導でインダストリー4.0を開始。工場などモノづくりの現場のスマート化を目指し、国中の工場を連結させるのが究極のゴール。他方、アメリカでは2014年、シリコンバレーの企業がインダストリアル・インターネット・コンソーシアムを設立し、産業全体をスマート化させようとしている。」そして「これらの取り組みは、ビジネスモデルを大きく変える」と訴える。

この背景に、「インターネットの爆発的な普及」を指摘している。「2000年、インターネットに繋がっていた人とモノは約2億。その後スマートフォンなどの普及で、2013年には100億近くにまで増加。2020年には500億以上に繋がる」と予測。「スマートフォンが人と人、人とモノをインターネットで繋ぐとすれば、センサーはモノとモノを繋ぐ。このセンサーを介し、モノとモノが自らネットワークで繋がる。これが、今話題のI o T（Internet of Things：モノのインターネット）社会だ」と述べている。

こうした中、「インターネットのネットワークを活用して、流通、医療、インフラ、交通システムを飛躍的に改善する動きが急速に広がり始めた。モノづくりの分野でも、ネットワーク化した情報を活用し、生産・流通の現場の効率化を進める動きが活発化している。また、製品にセンサーを組み込んでネットに接続し、スマート化。センサーから収集される膨大なデータを、人工知能で分析し、その結果を消費者に提供することで付加価値を高



める」こういう動きも始まっていると紹介されている。

I o T時代

モノとモノとがセンサーを介し自らネットワークで繋がり、センサーから収集した膨大なデータを人工知能が分析し、その結果を私達に提供するという技術革新が着実に進んでいる。I o T時代には人が直接見ておかなくてもいい事が、世界で一つに繋がっているということになる、ということだそうだ。

これまでの時代は、私達が工場で作る製品それ自身が付加価値を持った商品であった。しかし、I o T時代では一つの部品であり、これまでとは価値観を変えなくてはならないと言われたことがある。

私達の生活や働き方はどう変わるのだろうか。日本では、世界に先駆けて少子高齢化・人口減少が進む。そこで生じる社会的課題に、I o Tはどのような影響を与え、また与えられるのか。

この技術革新と利便性を追求した先に展開される社会がどのようなになるのか、楽しみでもあり、不安でもある。

スマホ18の約束

あまりにも有名になったのでご存じの方も多と思う。これは、アメリカのあるお母さんが13歳の息子にスマホを持たせる際に、悩み抜いた末に二人の間で結んだ誓約書のことである。

幾つか紹介しよう。「書き込む前に、その

言葉を直接相手に言えるか？考えなさい」

「人と話している時は、スイッチを切るかマナーモードにきなさい」「あなたの知り合いの裸の写真をやり取りしてはダメ。一生付きまとわれ、ネットの巨人から跡形もなく奪い取ることは絶対に無理だから」「チャートにない新旧の音楽をダウンロードしてご覧なさい。音楽がこんなに手に届く時代は初めてよ」「検索の世界だけでなく、鳥がさえずる現実の世界も見なさい。外を歩き、見知らぬ人とも会話を楽しみなさい」。

この約束は、インターネット時代の子供に対して、スマホを通じて得られる利便性を享受する際の、人としてのルールを伝えたかったと思っている。

心の備え

これから訪れるI o T時代にはおそらく便利で一人ひとりにとっても気持ちが良い社会になっているだろう（そう願っている）。そして好むと好まざるとに関わらず、すべてが繋がっている社会になっているとも言える。

そんな時代の到来を目前に控え、タイトルを『I o T時代の心の備え』とさせて頂いた。その思いは「スマホ18の約束」を読んでより感じることだが、技術革新で利便性を追求して生まれた商品やサービス、それらと人間がどのように向き合うべきか？人間性を失わず、人間主体で上手に技術を使っていくという気持ちの持ち方、物事の考え方が重要だと思うからである。